

このたびは「バイクタワー5」をお買い求めいただきましてありがとうございます。

バイクタワーは2台の自転車を上下2段に保持できる省スペース型収納台で、オプションのクレードルセットを追加することで、最大4台までの自転車を表裏両面で保持することができます。

支柱は1.7m～3.1mの間で自由に長さ調整ができ、天井と床との間に突っ張らせて設置します。

上部カップにはバネが内蔵されており、工具なしで簡単に設置・移動させることができます。

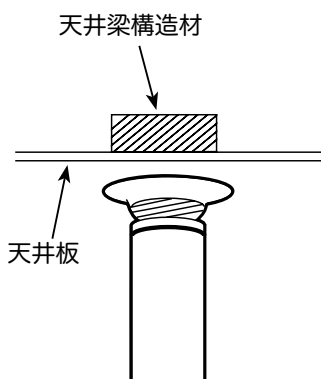
以下の説明をよく読み、安全に正しくお使いください。

注意していただきたいこと

- バイクタワーは通常の2輪自転車専用です。重い電動自転車やタンDEM車を取り付けたり、支柱に壁面パネルなどの自転車以外のものを取り付けたり、あるいは支柱を水平に使いそこに自転車をぶら下げるなど、この説明書で指示されていない用途には使用しないでください。
- バイクタワーは天井に対してバネで押す力で設置されます。天井は梁が通り十分な強度を持つ場所にのみ設置してください。また床もしっかりと安定した場所に設置してください。強度不足の場所に設置すると、倒れたりして怪我や損害の原因となります。



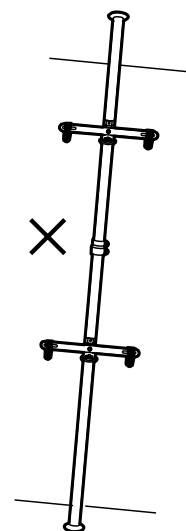
天井は、十分な強度を持った梁が通っている場所を選んでください。梁がない板のみの場所だと、バネの力で天井を突き破ってしまう恐れがあります。



バイクタワーは天井と床との間で垂直にセットして使用してください。傾いたまま設置されると十分な安定を確保できなくなり、何かの衝撃で外れて転倒してくる恐れがあります。

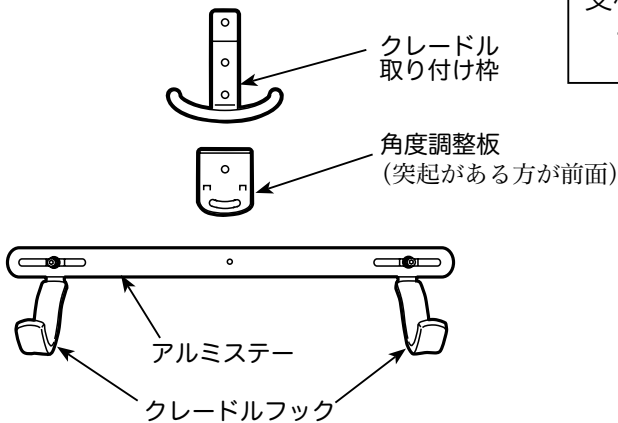


バイクタワーの支柱の長さをセットする際は、上部カップの直下に赤い部分が見えなくなるまで十分に支柱を伸ばしてください。赤い部分が見えるということは、まだ長さが足りないという意味で、それにより正常な荷重の保持ができていないことを意味しています。

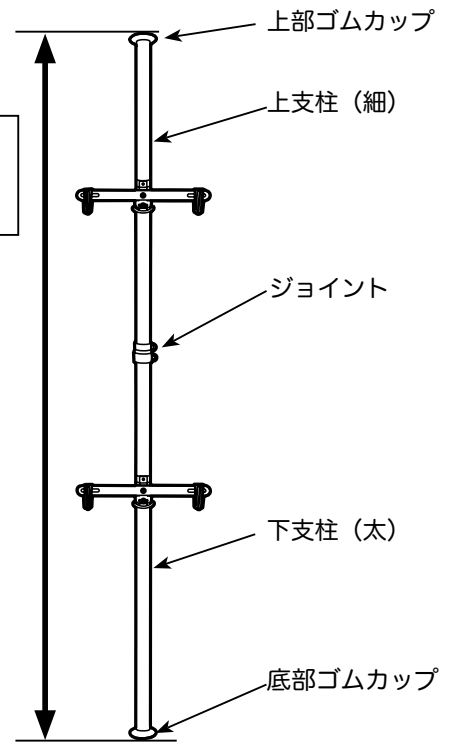


バイクタワーの組み立て方

<各部品の名称>



支柱高さ範囲：
1.7 ~ 3.1メートル



支柱の長さ調整のしかた

1 まず最初にジョイントの下側のボルトをしっかりと締め込んでおきます。

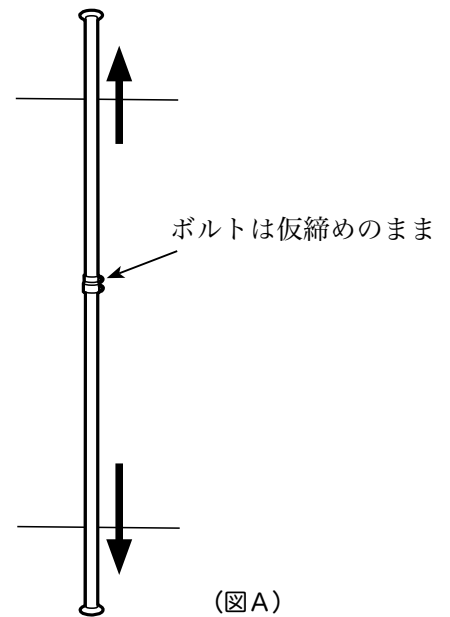
続いて上側のボルトを緩め、支柱を伸ばしていきます。

下支柱を床に付けた状態で上支柱を天井に向かって伸ばしていき、上部ゴムカップが天井に触れたところで、いったんジョイントのボルトを仮締めします (まだここでは本締めする必要はありません)。(図A)

2 いったん支柱を天井と床との間から外します。このとき支柱の長さが変わってしまわないように注意してください。

この長さからさらにあと 20 ミリだけ支柱を伸ばし、その位置でジョイントのボルトをしっかりと締め込んでください。

(図B)



2) 20 ミリ伸ばす

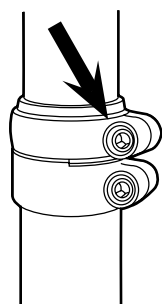


ジョイントのボルトの締め付けが緩いままだと、自転車をクレードルに載せた荷重で上支柱がずり落ちてきてしまいます。しっかりと締め付けてください。

ただし極端な締め付けすぎはボルトやジョイントを破損させてしまいますので注意してください。

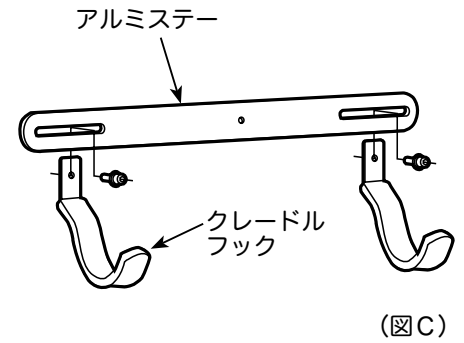
1) ボルトを緩める

3) ボルトを締める

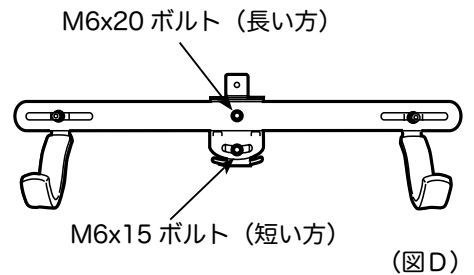


クレードルの組み立て方

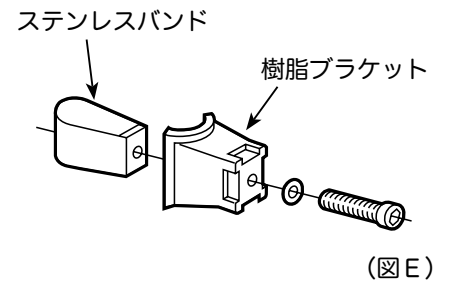
1 まずクレードルフックをアルミステーに取り付けます。(図C)
クレードルフックは、自転車への傷つき防止のためアルミステーの背面に取り付けてください。



2 クレードル取り付け枠に角度調整板を重ね、その上にアルミステーを重ねます。
これら3つを長い方の M6x20 ボルトで取り付けます。
角度調整板の長孔部分には短い方の M6x15 ボルトをねじ込みます。これはまだ本締めしなくても構いません。(図D)

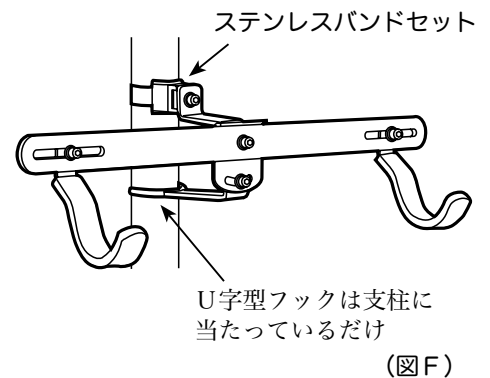


3 一度ボルトを抜いてステンレスバンドセットを分解します。
ステンレスバンドを支柱に巻き付け、バンドの端をもう一方の端と四角ナットとの隙間に差し込みます。
この姿勢を維持したまま樹脂ブラケットを被せ、クレードル取り付け枠の上部の孔を通したボルトをねじ込んで固定します。(図E)



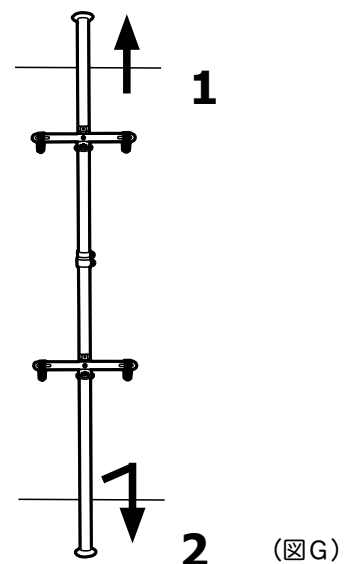
! ステンレスバンドは、クレードル取り付け枠の上側に使用しなければなりません。U字型の端は下側になり、単に支柱に当たっているだけになります。(図F)

! ステンレスバンドのボルトはしっかりと締め込んでおいてください。緩んだままだと自転車を載せたときにずり落ちてくる可能性があります。



部屋へのバイクタワーのセットのしかた

4 まず支柱を持ち、上部ゴムカップに内蔵されているバネを縮めるように力を入れて天井に押し当てます。このとき支柱は斜めに傾いています。
そのまま下側をずらしていき、支柱を垂直に立てていきます。完全に垂直になったら静かに支柱を下ろします。(図G)



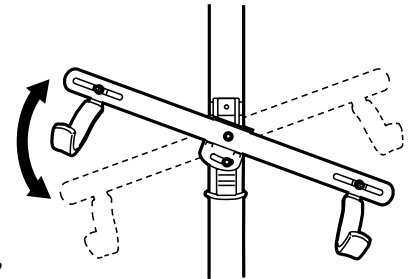


支柱を立てたとき、上部ゴムカップの下に赤い部分が見えていたら、まだ十分に支柱を伸ばしていません。そのままと荷重でバイクタワーが転倒してくる恐れがあり、危険です。

いったんバイクタワーを取り外し、設置したとき赤い部分が見えなくなるように正しく支柱の長さを調整してから、再び設置し直してください。



バイクタワーはどの方向からも垂直に設置してください。斜めになったままだと荷重がかかったときに突然天井から外れて転倒する恐れがあります。



(図H)

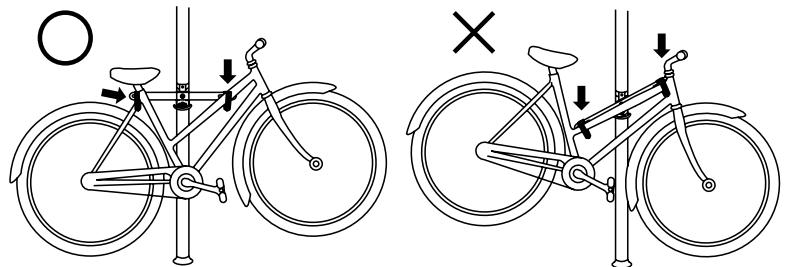
5

最後にクレードルの角度を調整します。

クレードルの角度を変えるには、角度調整板の下側のボルトを緩め、適当な角度になるまでクレードル全体を持って回転させ、最後にすべてのボルトをしっかりとねじ込みます。(図H)

自転車はできる限り左右にずれないように、フックをフレームの接合部分などに掛けるようにしてください。

(図I)



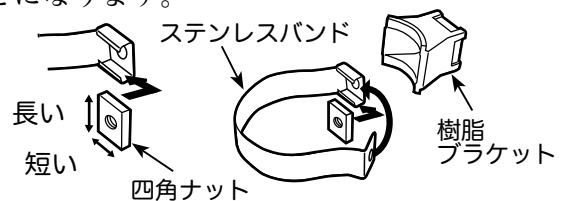
安全な自転車のフック場所

(図I)

ステンレスバンドのボルトがねじ込めないときは

ステンレスバンドセットに内蔵されている四角ナットは正方形ではなく、実は長方形です。四角ナットの向きを正しくセットしてください。

またバンドの端は必ず箱状のハンド端と四角ナットとの間に差し込んでください。バンドの端同士を重ねただけとしっかりと固定できないばかりか、バンドを破損させることになります。



日常の点検について

事故防止のため、以下の点を定期的に点検してください。

異常があったときはすぐに使用を中止し、販売店にご連絡ください。

1. 支柱やジョイントが変形したり亀裂が入っていないかどうか。
2. 溶接箇所に錆が浮いたり変形がないかどうか。
3. 各部のボルトがしっかりと締め付けられているかどうか。

お問い合わせ先

お問い合わせの際は、まずお買い求めになった販売店にご連絡ください。

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒460-0015 名古屋市中区大井町1-38

Phone (052) 321-6571 / Fax (052) 332-3166

Email fk.info@fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸1197-1

Phone (0584) 27-3131 / Fax (0584) 27-7505

Email infodesk@minoura.jp / Web www.minoura.jp